

ふれあいを第一に



高橋 秀明(佐原二)
【協議会会長】

「ばあちゃん、次は、僕打ってもいいかなあ？」
「ちょっと待って、あの人がボールをマークしてからね。さつきは、強く打ち過ぎて、ずいぶん行き過ぎたから、少し加減して打ちなさいよ」・・・「ヤッター！ホールインワンだよ」
今日は、待ちに待った「第15回北佐原ふれあいグラウンドゴルフ大会」です。2週間続いた週末の台風の心配もなく、雲一つない秋空の下、風光明媚な横利根門ふるさと公園を会場として、小学生、先生、父母、祖父母など三世代・四世代

にわたる北佐原地区の住民327人の参加があり、41組にもおよぶ大会となりました。
この大会は、平成11年から有志により各種団体の協力を得ながら続けてきた行事です。平成23年の東日本大震災の年だけ中断しましたが、翌年からは、北佐原まちづくり協議会が主体となり、平成26年も63人の実行委員会を設置し、6月から検討、準備をして、10月18日に開催する運びとなりました。
今回は、特に児童による司会、進行、競技の記録係表彰式の成績発表など、行事への積極的参加を得て、手作りに参加型のイベントとなりました。
これからも、皆さんに積極的に参加してもらえよう、参加者の喜ぶ顔を思い浮かべながら地域住民のふれあいを第一に各種の事業を推進していきます。



▲北佐原ふれあいグラウンドゴルフ大会

まちのあしたをデザインする 市民協働最前線

住民自治協議会(まちづくり協議会という呼び名を用いているところもあり)は、現在市内に18協議会あります。活動内容は、それまでの地域活動を発展させたものや、その土地ならではの

はのアイデアにあふれたものなど、さまざま。それらの活動の一端を、各協議会の皆さんからご紹介いただきます(年2回、順々に各協議会に登場していただきます)。

住民自治協議会
現場レポート
File 2

笑顔でつながる地域に



高橋 五嗣男(二ノ分自新田)
【協議会会長】

小見川北地区は利根川沿いの広大な田園と丘陵地に囲まれた地域で、旧豊浦村に由来します。往古は、一帯が香取海で、利根川下流域最大の大家山古墳は有力豪族が支配した証です。また海上、香取の郡境鎮護を司った古社、古刹は、

香り高い稲作文化を育んできた歴史です。その源泉は先人の知恵と地域の力です。これを次代に継承し「笑顔でつながるみんなのまち」を目指そうと、40年前に組織した地区連協を母体に平成23年から新たにまちづくり協議会がスタートしました。人口約5000人、8つの町内会、各種団体を包含したものです。主な活動は、地域の自慢、誇りなどの長所を伸ばし、自助、共助、公助による地域づくりを進めるものです。健康福祉、防災安全、道路環境、教育スポーツ、産業、郷土文化、コミュニティなど7つの

分野で活動をしています。恒例事業としては青少年スポーツ大会、芸能祭、道路愛護活動、高齢者交流サロン、ウォーキング大会、広報活動などです。特に「北地区芸能祭」は開催26回を数え、100組の老若男女が歌謡、民謡、踊り、パフォーマンスを披露し、会場を満面の笑みに包みます。「来年もまた来るよ」が新たな力となります。進む少子高齢化、大切なことは「一人の気遣い」です。家族意識を持って温もりのある地域づくりを進めます。



▲北地区芸能祭



▲高齢者交流サロン(ミニデイサービス)



▲青少年スポーツ大会(ヘルスバレー)

自分たちの命は、 自分たちで守る



諏訪 正基(竹之内)
【防災・防犯部会会長】

防 災・防犯部会は、住民の皆さんが安全で安心して暮らせる地域づくりを目標として、防災マップの作成および各戸配布、千葉県西部防災センターでの体験学習会を行ってきました。発足から3年目を迎えた昨年の9月には八都小学校を会場にして、100



▲防災訓練
(上：消火訓練、下：応急救護訓練)

人が参加する防災訓練を実施しました。訓練では、消火器の取り扱いの説明を受けた後、水が入っている訓練用の消火器を使って一斉に初期消火を行い、消火器を使ったことがない参加者にとっては貴重な経験になりました。次に、土のうの作り方と積み方の実技指導があり、災害時の備蓄用に200袋作製しました。また、二つの訓練と並行して、炊き出し訓練も実施しました。さらに、体育館で応急救護訓練を行い、消防署員と日赤奉仕団の講師からAEDと応急手当などの実技指導を受けました。特に、AEDを含む心肺蘇生法の実技では、参加者から胸骨圧迫の深さや回数などの質疑があり、応急手当に対する関心の高さを感じました。訓練に参加して思うことは、「いざ災害が発生した時に自分はどういう行動できるか」ということです。災害が大きければ大きいほど、自助(自分の身は自分で守る)、共助(力を合わせ助け合う)が必要になります。自分たちのまちを守するためにも、地域の人たちと交流が図れる防災訓練に積極的に参加してもらいたいと思います。

自治協 まち協

Q&A

◎どうして住民自治協議会が
つくられるようになったの？

▲それぞれの地域で、もともと行っていたこと、あるいは今必要とされている取り組みを、その地域に住んでいる人の手でこの先も持続させるために、個人や団体、行政などが互いに連携し、支え合う組織が住民自治協議会です。

合併後、市のおおもとの計画である「総合計画」で、香取市は「市民協働による暮らしやすく人が集うまちづくり」を掲げました。市民と行政、市民と事業者、市民と市民といったさまざまな「協働」により、住み良く活気のあるまちをつくらうという考えです。これを実現するためのルールとして、市民の皆さんの声を聴きながら、「市民協働指針(かたりの風)」を平成21年3月に策定しました。

その指針にのっとり、平成23年3月に「まちづくり条例」を公布しました。それぞれが当事者として地域の課題に目を向け、考え、行動する—この地域ぐるみの活動の仕組みとして住民自治協議会を位置づけたのです。それ以降、市内各所で住民自治協議会が設立されるようになりました。

◎行政の窓口はどこに？

▲市役所と各支所に協議会の活動を支援する部署が置かれています。

- 固佐原市民活動支援センター ☎(50)1213
- 小見川市民活動支援センター ☎(82)1250
- 山田市民活動支援センター ☎(78)1051
- 栗源市民活動支援センター ☎(75)2112

津宮まちづくり協議会

設立年月：平成24年5月
会長：久保木 徳(津宮)

人が集う豊かな郷土へ



久保木 徳(津宮)
【協議会会長】

津 宮まちづくり協議会は、津宮地区の住民を会員とし、33団体69人の委員(区長会や消防団など)のべ65人の5部会(総務広報、地域振興、子ども福祉健康、安心安全、30人の理事により組織され、協議会規約やまちづくり計画に基づき活動しています。「誰でも親しく笑顔でまちづくり」をスローガンに掲げ、各団体のこれまでの活動を継承・進化させ、新たな事業も実施しています。「津宮モーニング・ラジオ体操会」事業は、それぞれで各区単位だったラジオ体操を一カ所に集合して実施

したもので、一昨年に始めました。小学校の校庭に参加者が一堂に会したことで、老若男女を問わず住民相互の交流が自ずと図れました。7月の10日間に、延べ900人という多くの参加がありました。住民の皆さんの「郷土への愛着」から来る「誇り」や「優しさ」の現れではないかと思えます。津宮は鎌倉時代に開発された村ですが、言い伝えによれば、古くは神話の時代に、経津主命が東国平定の折に金の鷹に案内され、銚子沖から香取の海(現在の利根川)を遡上して津宮の鳥居河岸に降り、香取の亀甲山に陣を敷いたといわれています。江戸から明治時代には十返舎一九や与謝野晶子といった多くの文人墨客が訪れ、旺盛な文化交流がありました。また、「津宮六景」とも称される風光明媚な地です。



道の街、ローテンブルクの城門に、「歩み入る者に安らぎを、去りゆく者に幸せを」という言葉が刻まれています。言い換えれば、「安らぎは平和であり、幸せは安全・健康」でしょうか。住民の皆さんが、津宮地区に住む人のためにどんなに小さな活動でもよいので躊躇なくできることを願っています。

◀早朝の清々しい空気の中、み～んなでラジオ体操